

『みとっ歩 - ゼロから始める水戸生活 - vol. 2』制作プロジェクト

分野 : ボランティア、地域交流

代表者 : 教育学部 2年 阪井 一仁

連携先

水戸市市長公室みとの魅力発信課

顧問教員

西野 由希子(人文社会科学部 教授)

参加者

大村 みるほ(教育学部情報文化課程 3年)

高田 美菜 (人文学部人文コミュニケーション学科 3年)

梶山 未歩 (人文社会科学部人間文化学科 2年)

阪井 一仁 (教育学部学校教育教員養成課程 2年)

関澤 南 (人文社会科学部現代社会学科 1年)

プロジェクトの概要

・背景

本プロジェクトは、2017年に水戸市より「水戸市外出身の大学生の目線で水戸市の観光パンフレットを制作してほしい」と茨城大学の学生に依頼が来たことからスタートした。その観光パンフレットは、およそ1年をかけて2018年の3月に発行、茨城新聞にも掲載された。その後、『みとっ歩』の一作目では取材できる店に限りがあり、水戸の「良さ」を発信するには不十分であると感じられたこと、編集員一同この活動を一回きりのものとするのは非常に勿体無い、との思いから、学生地域参画プロジェクト

に参加し、今季の活動を開始した。

・プロジェクトの内容

本プロジェクトは、「フリーペーパー」という形でまだ気づいていない水戸の魅力を発信するものである。

プロジェクト実施にあたっては、記事作成のため合計11店に取材を申し込んだ。それぞれ約1時間をかけ、「水戸でお店を始めようと思ったきっかけ」「水戸でお店を続けてきて思うこと」「お店を続けることでわかった、水戸の良い点・悪い点」などを質問、深掘りし、それを文章にまとめた。その後、PhotoshopやIllustratorといったソフトを使用し、記事ページを作成した。また、タイトルのように「水戸を歩くこと」「水戸に住むこと」を意識し、実際に編集員が水戸を歩くなどして掲載候補店を探したり、記事内容は「住む」ことを意識したものにするなど、工夫を凝らし、フリーペーパーを発行した。

(以下、参考画像)



取材風景 (花きやべつ様にて)



『みとっ歩』表紙



2-3 ページ。編集員が実際に回り、考案した水戸巡りマップを掲載した。



16-17 ページ。前回と比較し、写真を多用し視覚情報を充実させた。

・活動日程

2018年6月（学プロ採択後）～8月：取材店選定、冊子レイアウト構想策定

2018年8月～2019年1月：取材開始及び記事・ページ作成、SNS運営（Twitter）

2019年2月：記事・ページ校正、冊子印刷、SNS運営（Twitter、Instagram）

・プロジェクトの目的

水戸市に住んでいる人、水戸に初めて来た人に、水戸にはどんな店があるのか、お店の方は、お店を運営する上でどんな想いを持っておられるのか等「街の魅力」を共有し、自他ともに、まだ気づいていない「水戸」に目を向ける（関心を持つ）こと。また、それにより、地域活性化活動等に目を向けるきっかけを創ること。

プロジェクトの成果報告

・プロジェクトの成果

『みとっ歩 - ゼロから始める水戸生活 - vol.2』2500部発行。

（内訳）

水戸市観光案内所 500部

市公共機関 200部

茨城大学、常磐大学 計800部（予定）

「茨城大学 茨城遊学プロジェクトー花の陣ー」（2019年3月2日開催）300部（予定）

取材店舗（11店）400部

その他 100部

また、Twitter (@mitoppo)、Instagram (@mitoppo_vol.2) にて取材店情報、未使用写真、取材時の裏話し、制作しての感想などを始めとした情報を発信。SNSでは、『み

とっ歩』について「観光ガイドなどには載っていない情報も多く、楽しみにしている」「水戸に行ってみたくなった」「自分たちの街でもこのような冊子を作ってみたい」などの感想(メッセージ)が寄せられている。

・今後の課題

今回のプロジェクトでは、ページ制作に時間がかかりすぎてしまい、広く感想等を募る時間を取ることができなかったこと、公共機関などを取材・掲載できなかったこと課題として挙げられる。また、前作に続き、本作も水戸駅周辺にのみスポットが当てられており、水戸市全体に目を向けることができなかったこと、完成したフリーペーパーを改めて見返すと英語表記などが非常に少なく、外国の方への配慮が欠けていたことも、課題の一つである。

・今後の展望

今後の展望として、まずは『みとっ歩』の感想、不足点等について、観光案内所を始めとした配布機関で聞き込みを行う。それと併行して、次号三作目の『みとっ歩』について構想し、SNS 等でメンバー募集を行う。加えて、2019年5月～6月にかけて、取材店へ「本誌発行前と後の変化」についてアンケートを取り、それも参考に、次号を構想する。また、次号作成のため、Photoshop や Illustrator など編集技術向上にも取り組んでいきたい。

SNS 運営については、当アカウントの影響力等を調査し、「紙媒体ではない」、新たな広報の形を模索していきたい。紙には紙の良さがあるが、ウェブ媒体には ICT でしかできないこと、その良さがある。今後は、

各々の媒体の良さを活かした制作活動も視野に入れ、活動を続けていきたい。